

スラモルの特徴

- 植栽の下地に利用できます。この場合埋戻し後に客土を入れる必要があります。
- 流動性は高いです。
- 配合によりますが、湿潤密度はベース配合で（セメント 50kg/m³）で 1.77 t/m³ です。
- 同種類の粉碎砂（再生砂）を使用し、現場発生土（建設残土）を使用していませんので、品質が安定しています。
- アジテータ車で運び（箱ダンプ・ローリーでの運搬ではありません）、現場でポンプ圧送やシュートでの流し込みが出来ます。
- 流動性が大きく長時間にわたり側圧がかなりかかりますので、止め枠等のサポート、使用する板の厚み等には十分な配慮をして下さい。
- 流動性が高い為、チョットした隙間や穴があると流れ出します。この場合、ポリフィルムやブルーシート等を張ることで防ぐことが出来ます。
- ポンプ車はピストンでも可能ですが、高所の打設にはスクイズをお勧めします。
- 打設完了後から硬化するまでの沈み（下がり・沈下）は 0.5%～2.0%程度です。
- 高流動のため荷卸し時は飛沫が飛びますので、ブルーシート等での飛沫除けが必要です。
- 雨天での打設や埋戻す場所に多少水があっても、材料分離等の品質的な問題はありません。
- 硬化日数はセメント量の他に、季節、打設場所の環境によって変動します。春・秋で打設場所が室内で下が地山、上部が解放されている場所であれば、セメント量 50kg/m³ の配合で人が上に乗って作業できるのは 2 日後が目安となります。季節が夏であれば翌日、逆に冬であれば 3 日後となります。冬場でも 150kg/m³ 以上セメントを使用すれば、24 時間後に埋戻しをした上で作業が可能になります。
- 硬化熱はありませんので、新設ガス管廻りなどの埋戻しにも使用できます。
- アジテータ車の積載量は 4 t 車で 2.0m³、8 t 車で 3.5m³、10 t 車で 4.5m³ 積です。現場までの途中で急坂がある場合は、その都度少なく積むこともあります。
- 1 日の出荷量は、材料があれば最大 400m³ は可能です。大量打設の場合は出来るだけ早めに予定を入れることをお勧めします。
- 墨だしは可能ですが、こすると消えてしまいます。極力墨線上の歩行は避けて下さい。
- 圧縮強度は 4 週で 3.5N 以上発現する配合もあります。長期強度は 3 ヶ月後を目安に伸び続け 4 ヶ月後を境に安定します。セメント量が少ない配合でも、長期的にみると強度が増しますので、再掘削をする場合は早めに行う事をお勧めいたします。
- 硬化が遅い為 5～6 時間経過しても打設できます。遠距離現場にも配達が可能です。
- ポンプ車で圧送する場合に、モルタル・セメントの先行は必要ありません。

- 200Vのモルタルポンプでの圧送も可能ですが、配管閉塞の可能性もあります。
- 価格は現場までの距離、打設数量、アジテータ車の回転数、大型車・小型車の別、高速道路使用の有無等で変わります。
- 公共工事の建設・土木とも実績があります。
- 通常の埋戻しが困難・不可能な場所に対応出来ます。
- 1m³単位の出荷が可能です。(ただし、割増し料金がかかります)
- 山砂での埋戻し、改良土での埋戻しでは転圧後も沈下する可能性がありますが、スラモル（高流動埋戻し材）は硬化後の沈下の心配はありません。
- 地震による液状化現象の防止になります。
- 土による転圧は、ランマー関係の事故の危険性が有ります。また、クレーン・ラフターを利用した山砂等の搬送では危険性が増しますが、スラモル（高流動埋戻し材）での打設は作業員の安全確保・安全管理がしやすくなります。
- 防空壕・地下タンク・地下室など、すでに崩壊していて危険な場所、ガスが充満していることが予想される危険な場所にも、作業員が埋戻し箇所に立ち入ることなく、安全な場所からの充填が出来ます。
- 打設後の状況はコンクリートと類似していますので、違和感が無く山留め工事等にも向いています。
- 土による埋戻しは、作業員の手配、締固めに用いる機材、搬送のためのクレーンなど重機の手配等が必要になりますが、スラモル（高流動埋戻し材）は価格が高くても、人手の削減、重機不要などのメリットがありますので、トータルコストは安くなります。
- コンクリートで四方を囲まれた場所に埋戻しをする場合は、水の逃げ場が有りませんので、硬化に時間がかかることが有ります。
- 空洞部分の完全充填をめざす場合は、収縮がゼロではありませんので、数回に分けての打設をお勧めいたします。
- 必要に応じて強度が柔軟に対応できますので、使い勝手は良いです。
- 打設作業は、通常の土による埋戻しや生コンの打設と比べてかなり楽に済ませられます。
- 打設箇所の状況および環境の変化で硬化後にクラックがはいる場合もあります。
- 練り上げ直後の状態は、1：3モルタルに多めに水を入れて練り上げたものをイメージして下さい。
- 設備配管・タンクなどを埋戻す場合は、想像以上に浮力が掛かりますので、浮力防止策を必ず取る様にして下さい。